

Spring seminar 2018

5th C+ 候補テーブル 総評
ジャッジ：橋本（法政大学四年）

【テーブルメンバーと順位】

- 一位：松本（東大3）
- 二位：浅野（上智3）
- 三位：石井（青学3）
- 四位：鈴木（東女2）
- 五位：林（高崎経済2）
- 六位：三宅（フェリス2）
- 七位：鈴木（早稲田2）
- 八位：安田（東女3）

【全体の流れと感想】

narrowで松本君より、「educational issueだから、コンパリでS/Mだけでなくeducational purpose についても3impactでコンパリしたい！」というSが打たれた。（もしSに乗らなかったら色々なエリアでObjある。）

そのSに乗るか否かはOPが決まってから決めたいと松本君が発言したが、その後様々な内容のQが飛び交った。

松本君以外の人に対して：OP決まってからSの結論を得るのならば、Sの内容をざっくりと把握するだけでいいだろう。

松本君に対して：ざっくりSの内容を共有したいだけ！と自分の発言に対するGOALを初めにしっかり伝えるべきだった。（narrowの時点では、後でSがある！というのを共有するのがGOALだったはず）また、それを共有した後に、OP決めのQタイムの際に「Sに乗るか否か」をそれぞれ立候補者に聞いた方が時間短縮できただろう。

あと、パンツである必要はなさそうだったから、自分がしたいことのできるオピシで立候補すべきである。

あと、一つ気になっていたのが浅野さんが「もしSに乗ったらeducational purpose に関して必ずコンパリしないとダメなの？」というQに対して「must useではなくcan useだよ！」と答えていたが、それだったらSに乗ってもらえなくても出来る可能性はあるだろう。（もしそうでないなら違いが知りたかった！）

OPには浅野さんが選ばれた。検証が進む中で松本君からSQ→APで「教育を受ける機会を失う」場面を確認するQが何回か行われた。

この時、松本君は”こんな論点がある”ということを共有したかっただけなのだが、今ダウトがあるのか？Sをまた打とうとしているのか？彼は何が言いたいのか？と混乱が生まれ進

度がかなり遅れた。

HARMで体罰の定義が、「最終的にBOEにjudgeされたもの」とわかり、安田さんから、「体罰受けたり、受けている現場を見てもBOEに伝えない人がいるから体罰の存在自体にダウトがある」という発言がされた。

安田さんのアイデアを探るQCがされた後、松本君や石井さんから「workaで話せるよ！」「DAとしてidea出せるよ！」とSが打たれたが、どちらにも乗らず話は終わった。

安田さんはSQでの体罰の存在がない！と言っているから、workaやDAではなくSQでダウトを持っている。また、この会話の前に、VP: TGだと「feel physical pain or not」でC/Pとするかどうか決まる、という話があったが、今回SQでのC/Pの定義は何なのか整理をして欲しかった。（これによっては安田さんのダウトを解消できたかもしれない）

（基本的にSQではVP: factで進めるが、体罰の場合factでも、「体罰」として認識されているものとされていないもの（問題として発覚されていないもの・人によっては体罰と受け取らないほど緩いものなど）等、認識のズレが生じる可能性が高いため、きちんと確認して欲しかった）

SOH後に、松本君から「S/Mの“harm・SOH（AL1マイナスあるか否か）・NFC（MSBする余地あるか否か）”を検証するみたいに、educational purposeでもharm・SOH・NFCを確認しよう！」というsが打たれた。

そこから、OPのスタンス確認、二人の違いの確認等様々なQCが飛び交い、結局suggestionのアンサーは先送りされ次に進んだ。（あんだけ話しといて結論出さんのかーい！！と思った。）

S/Mは-なものだが、educational purpose自体は-なものではなく、どうS/Mと同じように考えて検証していきたいのかイメージが湧かなかった。松本君は、そこをもっと説明してほしいし、周りにはそこに疑問を抱いて欲しかった。

また、このSが通ったら、実質OPは浅野さんと松本君の合同オピメ！みたくなるけど、したら何で松本君がオピメに立候補しなかったの？と疑問を抱き、そこまでする必要性を聞いて欲しかった。（SのGOAL: Sに乗ってもらえなかったらset up new areaするって答えていたけど、それはテーブル的に良かったの、？new areaの内容によってはどっちにしるSの内容と同じようなものだったのでは？）

NFCで林君の「先生の数が減って教育の質が下がる」というアーギュを検証している途中で時間が来て終了となった。

【松本君の主張と複数のtalking pointについて】

上にも書いた通り、

“educational issueだから、コンパリでS/Mだけでなくeducational purpose に関しても3i mpactでコンパリしたい！”

というのが彼の考えであった。

これに沿って主に2つのdoubt(talking points)が共有された。

①Q：C/Pの目的は？(VP: teacher)

A：教育目的の人とそうでない人(ex. ストレス減のための暴力)は両方含まれる
(=×consider)

=教育のためにC/Pをしている人がいるのであれば、T/Pよってeducational purpose を達成する機会を失うことになる(=DA)

②Q：生徒は悪いことした後体罰によって更生しますか？

A：×consider

=体罰によって更生する可能性があるのなら、T/Pよってeducational purpose を達成する機会を失うことになる(=DA)

【全体に対するコメント】

「松本君がS/Mと同様にeducational purposeに関してもSQから検証してコンパリがしたい」という事実はわかったが、結局どうやってそれを検証していくのか・OPのオピシの中で検証する方法は本当になかったのか・それを検証すると何が得られるのか、と深く何がしたかったのか知ることはできず、また実際に検証されることもなく終わったため、薄い内容のテーブルだった。

わからない人が「わからない！」と言えて、それを蔑ろにせずわかるまで理解に付き合う点はとても良かった。しかし、そこで話がマイクロどんどんになり、更に分からないことが出てきて、、、を繰り返している場面も少なくなく、「進捗」や「今ここで話すべきことはどこまでか」を考えている人はほぼいなかった。

テーブルで、松本君のアイデアを検証するのかもしれないのかもっと早く決めて、するならアイデアに必要な話以外はあまりせず進めていく・しないなら松本君がダウトを提示してもアウトラインだけ聞き一回一回沢山の質問はしない等、どこに時間をかけるべきなのか考えてデイスできるといいだろう。

【個人総評】

一位：松本（東大3）

一番評価されたのは、話をごちゃった時のCや、話を前に進めるためのCです。議論の順序も見極められていて良かったです。また、面白いアイデアをずーっと出し続け、一貫性あって良いし面白いな～この子！と思って見ていました。

自分からするQが全部“edu pps”に関するのと徹底した感じは好印象でした。

たまに、何のためのエクスプラかわからないかったです。チャートにラベリングするだけでテーブルでの浸透率が変わるから書いてほしいです。

あと、具体的にどうedu ppsを話していきたいのか見えなかったです。Sの内容（アイデアを検証するアウトライン）を説明して、Qが沢山きたのに丁寧に答えて、でも答えは後でいい！なら、何がしたいのか中途半端な気もしました。

（松本君がプロシ提示してオピメに立候補した方が早かったのかなとも思います）

何にせよ、一定以上のハンドリング力と、面白いアイデアを持っていた彼は絶対にC+にいるような子ではないと思ったので、アッセンでバケモノになってくれることを期待しています！お疲れ様でした◎

二位：浅野（上智3）

アイデア理解を深めるQをしているのを一番評価しました。話をごちゃった時にまず先に“what we talk now”をCしようとするのは割と彼女で、せっかくテーブルに必要なCしようとしているのに途中で遮られたりした時に自分のところへ戻さないのが惜しかったです。ミクロなところで話をごちゃりそうになったら、オピメとして説明してもよかった場面も多々あった印象です（ミクロなりがちな！）

発言一つ一つのパーツは質が高かった印象なので、それを繋げられるようにしたら飛躍すると思います！お疲れ様でした！！

三位：石井（青学3）

テーブルの進度に一番長けていた印象です。しかし、話をごちゃりきってみんなも何話しているのか分からなくなった頃に入ってくるので、（それまできらは省エネモード）もっと早くから入って欲しかったです！明るいアトモスもテーブルにいい雰囲気をもたらしているなあ！と見ていました。

ピンクの紙スペース取りすぎてごめん（笑）

そして、写真撮るときに書いたアッセンの目標を果たしてくれることを期待しています！！お疲れ様！！

—————（四位以下はとても僅差でした）—————

四位：鈴木（東女2）

複数のQを評価しました。わからないところを流さず、「わからない」ときちんという姿勢がとても良かったです。それを言うタイミングをもっと考えるとさらに良くなると思います！これからも泥臭く頑張ってください！

五位：林（高経2）

オブジェクションを評価しこの順位としました。次からは、テーブルの流れに任せるのではなく、どうやって自分のオブジェクションを話していくか・どういう反論が予想されそれにどう対処していくのかなど考え挑んで行って欲しいです！お疲れ様でした！

六位：三宅（フェリス2）

複数のQを評価しこの順位としました。自分が疑問に感じた際、どんどん介入するか、事前に“こんな話をしたい！”とオピニオンやアイデアを考えて提示するかしたら、3時間でのディスカッションの感想が変わってくるのかなと思います！お疲れ様でした！
関係ないけど、絵、上手だね笑！

七位：鈴木（早稲田2）

Cを評価しこの順位となりました。介入が一步遅く既に浸透している話であることが多かったのが惜しかったです。自分が疑問に感じたり、??と思った時にすぐに介入するだけでも順位は大きく変わったと思います。お疲れ様でした！

八位：安田（東女3）

介入がほとんど見られずこの順位となりました。とはいえ、以前私がななこちゃんを見た時よりすごく話に聞き入りディスカッションに熱心に取り組む姿勢が良かったと思います！介入をするとまたディスカッションの違った楽しさが出てくると思うので、なんで話せなかったのか・自分は3時間通してどんなことを議論したいのか等考えるといいと思います。お疲れ様でした！

春セミお疲れ様でした！ディスに対する目標や楽しみ方は人それぞれだと思います。

だけど、3時間一度も気を途切らさず目標に向かって取り組めたか・・・って考えるとそうでなかった人も多かったのではないのでしょうか！

せっかく貴重な大学生活をディスカッション活動に捧げているのですから、具体的な目標を立て、アッセンに向けて各々の目標に向かって本気でプレパして欲しいです！！

私でよければ相談にもものるので、頑張ってください！！応援しています！！

法政大学四年 橋本茜

LINE akane2133799